

修復に関するあらまし

西教寺の中長期方針

このたびの募財について、1987(昭和62)年と考えあわせて、余りにも計画性がないとの厳しいご批判を受けて、討議されました。

変化する呉市の情勢に応じて西教寺の規模を適応させる必要性を確認

(補足説明): 呉市の人口・経済の変化により、将来的に西教寺3ヶ所の伽藍を維持するのが困難になってゆく場合もあることを考慮して、適切な規模で運営することの必要性を確認したものです。これにともない今回の修復予算が大幅に縮小されました。

ご教化の中心を蔵本通支坊におく

(補足説明): 前回の長ノ木本坊庫裡・蔵本通支坊本堂建築時に決まった方針。これは、長ノ木本坊や三津田支坊をなくしてしまうということを直ちに意味するものではなく、利便性にすぐれた蔵本通支坊をご教化の中心としつつ、他はそれぞれの特色を生かしながら運営し、かつ規模を適応させてゆくということを意味しています。

長ノ木本坊は、西教寺の象徴的存在として、将来文化財とする選択肢を残す

(補足説明): 松下宏(呉市文化財保護委員)さんによると、「すぐさま文化財になるというものではないが、旧市内では最古の本堂なのでいずれは文化財になる」ということです。総代会では、「長ノ木本坊はなくてもよい」とか「壊して新築した方がよい」という意見は出されず、長ノ木本坊の特色としての「古さや歴史」を生かすことができるよう、現在の本堂に関しては、壊さず、将来に文化財にもすることもできるように選択肢を残しておこうということになりました。

15年後 三津田支坊本堂庫裡が限界に・それ以外は備蓄で可能

(補足説明): 三栄建設さんに西教寺の全建築物を見ていただき、補修・修復の予定とそれに必要な予算をたてて頂きました。また、山田毅美税理士事務所に西教寺の経営指導をしていただいたところ、三津田支坊本堂庫裡(15年後)以外は、西教寺の備蓄でまかなえるであろうということでした。震災による修復(約900万円)も備蓄でまかないました。三津田支坊に関しては、上記の方針によって適切に対応する予定ですが、同規模新築ということになった場合は6000万円必要ということでした。(募財予定に関しては本山・広島別院の募財はのぞきます)。

修復方針

・将来文化財とする選択肢を残した修復

(補足説明): 上記「西教寺の中長期方針」 をご覧下さい。

・地震・不況等による門信徒の経済状況を鑑み、今回は骨組みだけ修復

(補足説明) 解体して骨格だけ締め直し、屋根瓦を新調するだけの修復です。将来的に文化財になるような修復ですので、できるだけ古材を生かした修復になります。心配される強度、耐久年数に関しては、文化財の修復に詳しい一級建築士の藤田雅秀さん(洛設計)によると、このたびの修復案は、芸備地震や阪神淡路大震災でも構造的に十分耐えうる、また100年は大丈夫という修復の仕方、骨格の修復よりも次の屋根がえ(50年後)の方が先に必要になるということでした。今回は、内陣のお彩色・修復もしませんし、できあがりの見栄えは精彩を欠くものとなるでしょう。しかし、今回は門信徒の負担をできるだけ軽減するという趣旨に従い、他の部分は別の機会にお金をためて徐々に治そうということになりました。

・総予算 1 億 2 千万円 (1 軒あたりの単純平均 1 2 万円)

落慶法要費含まず

(補足説明) 数社に見積もりをしてもらいましたが、いずれも 1 億 4 千万円前後はかかるとのことでした。今回は当初の計画案 (2 億円・内陣修復を差し引けばやはり 1 億 4 千万円の案ですが) をぎりぎりまで縮小し、実質 1 億円の工事です。門徒数は、「門徒講」納入世帯数を基準としています。西教寺からの準備金は、何かあった時のための予備費とすることになりました。多く集まった場合にも使ってしまうわずに、中長期の方針に基づき貯金することになりました。

・今回は三津田支坊は募財をしない

伽藍の維持は、基本的にその地区の総代・門信徒が責任をもつ

(補足説明) このような形態が一番無理がないであろうということになりました。

前回の蔵本通支坊への募財は蔵本通支坊をご教化の中心にしようということから

(補足説明) 歴史的に、今までは三津田支坊の伽藍の維持は独自にまかかってきました。1987 (昭和 6 2) 年の蔵本通支坊本堂への募財は、上記理由による例外的なものでした。三津田支坊総代の総意として提出された意見を総代会で承認しました。

・設計管理と施工は別にする

設計管理... 洛設計 藤田 雅秀 京都市北区紫野東藤森町 1 1 - 1

TEL 075-414-7790 FAX 075-414-7791

(補足説明) 総代会で上記の会社に決定しました。文化財の修復に詳しく、最近本願寺の工事 (御影堂工事ではない) もすることになったということです。

期間 施工契約より 2 1 ヶ月 (約 2 年) 2 0 0 2 年 7 月 ~ 2 0 0 4 年 4 月を予定

計画

募財... 事前調査 (呼びかけ文・趣意書・事前調査)

2 0 0 2 年 4 月 2 4 日 世話人会より

(補足説明) : 計画成功のために、募財の「事前調査」をしてから、設計契約を結ぶ (別紙「事前調査」参照)

... 募財の実行 2 0 0 2 年 7 月より申込み・集金 納入期限は工事終了まで

(補足説明) : 事前調査を 7 月までに集計し、7 月より募財開始 (申込み・集金) 。足りない場合は計画の見直しをする。納入方法は別紙「事前調査」参照。

アンケート 2 0 0 2 年 6 月 ~ 8 月

(補足説明) : 修復・西教寺のあり方に対する意見・苦情を幅広く聞き修復や今後にかす 6 月 9 日修復委員会で決定が変更され、修復後に延期になりました。

設計契約 2 0 0 2 年 7 月... 6 月 1 7 日に契約をしました。

4 ヶ月

入札 2 0 0 2 年 1 1 月... 1 0 月 1 日 ~ 3 1 日の予定 (6 月 2 8 日現在)

1 ヶ月

(補足説明) : 入札方式は検討中

施工契約・施工

1 6 ヶ月

竣工 2 0 0 4 年 4 月

(落慶法要) 2 0 0 4 年 5 月

決算・報告 2 0 0 4 年 1 1 月